社 会 基 盤 情 報
標 準 化 実 施 計 画
2023

令和５年８月

社 会 基 盤 情 報 標 準 化 委 員 会

一般財団法人　日本建設情報総合センター

【改版履歴】　　（敬称略）

月日	該当頁	改訂内容
2024/01/22		委員交代・委員の所属変更に伴い、社会基盤情報標準化委員会委員一覧を更新

目次

社会基盤情報標準化委員会委員一覧..... 4
1 はじめに 5
2 2023 年度における標準化委員会の活動方針..... 6
3 特別委員会および小委員会の活動概要 7
4 特別委員会..... 8
4-1 検討テーマ..... 8
4-2 検討体制..... 8
4-3 目的..... 8
4-4 アウトプット目標及び検討スケジュール（案） 9
5 小委員会 10
5-1 属性情報の要件記述に関する標準化検討小委員会..... 10
5-2 点群データ等の 3 次元情報のオープン化に関わる標準化検討小委員会..... 12
参考　これまでの標準化委員会の活動経緯..... 18

社会基盤情報標準化委員会委員一覧

委員長	柴崎 亮介	麗澤大学	副学長
委　員	皆川 勝	東京都市大学	名誉教授
	矢吹 信喜	大阪大学 大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻	教授
	山下 純一	一般社団法人 buildingSMART Japan	代表理事
	木下 誠也	日本大学 危機管理学部 危機管理学科	教授
	蒔苗 耕司	宮城大学 事業構想学群 価値創造デザイン学類	教授
	今井 龍一	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	教授
	竹林 秀基	国土交通省 大臣官房 技術調査課 建設技術調整室	室長
	矢野 公久	国土交通省 大臣官房参事官 （イノベーショングループ）施工企画室	企画専門官
	玉石 宗生	国土交通省 大臣官房 公共事業調査室	室長
	滝本 悦郎	国土交通省 大臣官房 官庁営繕部 整備課 施設評価室	室長
	塩井 直彦	国土交通省 国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター	センター長
	河瀬 和重	国土交通省 国土地理院 企画部	部長
	須田 久喜	東京都 建設局 総務部	建設ＤＸ推進担当課長
	酒井 良和	大阪府 都市整備部 事業管理室	技術管理課長
	増田 慎一郎	静岡県 交通基盤部 政策管理局 建設政策課 未来まちづくり室	室長
	井深 美江	横浜市財政局ファシリティマネジメント推進室ファシリティマネジメント推進部	公共事業調整課長
	今石 尚	一般社団法人 日本建設業連合会 土木工事技術委員会	土木情報技術部会長
	戸倉 健太郎	一般社団法人 日本建設業連合会 建築生産委員会 ＩＣＴ推進部会	部会長
	児玉 直樹	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 情報部会	ICT 委員長
	張田 政男	一般社団法人 全国建設業協会 建設ＩＣＴ専門委員会	委員
	長谷川 浩	一般財団法人 港湾空港総合技術センター （SCOPE）	参与
	野田 勝	一般財団法人 日本建設情報総合センター	理事

1 はじめに

我が国では、建設省（当時）より「建設 CALS 整備基本構想」が 1995 年 4 月に策定され、CALS/EC を建設分野に広げるため、「技術標準」に係る整備目標が掲げられました。これを受け、社会基盤情報標準化委員会（以下、標準化委員会）では、2000 年に発足して以降、産学官を交え、3 ヵ年の推進計画を 4 回策定し、3 ヵ年推進計画最後の 2010 年 7 月から 2013 年 6 月末までは「社会基盤情報標準化推進計画 2010-2012」に基づく取組を行いました。

一方で、近年では、BIM/CIM（Building/Construction Information Modeling/Management）やビッグデータの活用等、ICT の先端技術を取り入れた新たな社会情勢への機動的な対応が期待されるようになりました。また、これまでに策定した技術標準のメンテナンスや運用上の課題、標準化ニーズなど、広範囲にわたるテーマへの取り組みが望まれるようになってきました。

これらの要請に応えるため、第 26 回社会基盤情報標準化委員会において、2013 年度から、委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」の建設分野全体の生産性の向上を図る趣旨に則った検討テーマの公募を開始しました。公募されたテーマの中から、標準化委員会による審査を経て採択する検討テーマを決定し、そのテーマに関し小委員会を設置して検討を進めています。

また、2015 年 1 月には標準化委員会自身の検討の場として特別委員会を設置し、標準化に関連する重要な課題を対象に議論を行うことになりました。これまで BIM/CIM の利活用や普及の推進のための検討や画像・映像情報の利活用に関する体系的な検討を行い、提言等をとりまとめました。2022 年度からは、BIM/CIM を維持管理に活用するためのあり方の検討を進めています。

以上のように、標準化委員会は、特別委員会と小委員会を検討の中核とし、これらの活動について年度ごとに策定される推進計画を踏まえ、産学官の関係者が参画する連携体制の下で、我が国の社会基盤情報に関する新たな標準化方策の検討を進め、もって建設生産・管理システムのあり方を見直し、i-Construction 及びインフラ分野の DX の推進に貢献することを目指しています。

2 2023 年度における標準化委員会の活動方針

2023 年度の特別委員会及び小委員会検討テーマは下図に示すとおりです。

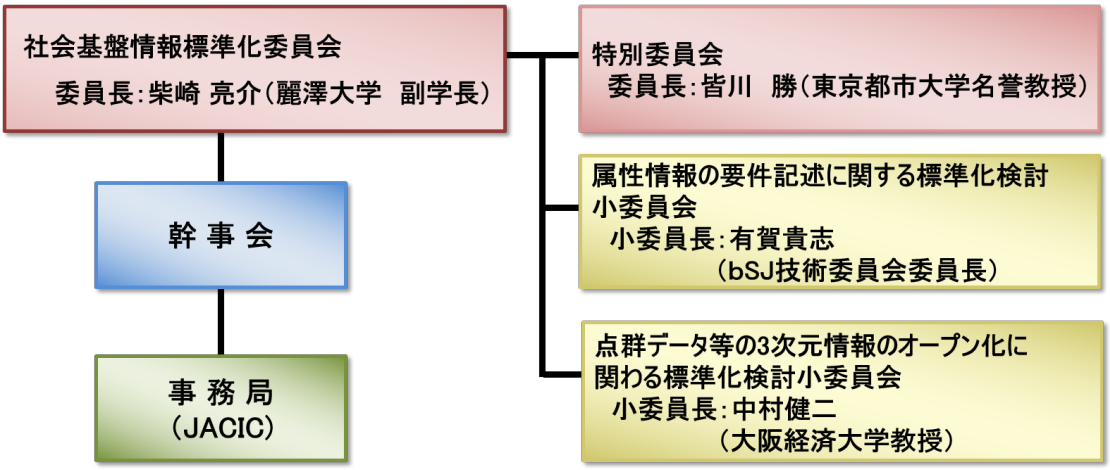


図 1　2023 年度における標準化委員会の組織図

2023 年度における委員会等の役割を表 1 に示す。

表 1　2023 年度における委員会等の役割

体制	役割・概要
本委員会	毎年、テーマを選定し、実施計画を策定する。 特別委員会・小委員会活動のレビュー（助言や指導）を行う。
幹事会	委員会全体の運営に関する事項の検討等を行う。
特別委員会	特定のテーマについて具体的な検討を行う。
小委員会	選定されたテーマに応じて提案者を中心に設置する。 小委員長は定期的に活動状況を委員会および事務局に報告する。
事務局	検討テーマの公募、会議の管理運営等の事務、委員委嘱、他

3 特別委員会および小委員会の活動概要

表 2　2023 年度の特別委員会および小委員会の活動計画（概要）

委員会名称		委員長	検討概要
特別委員会		皆川　勝／東京都市大学名誉教授	これまでの BIM/CIM に係る知見を活かし、将来に向けて重要なテーマである維持管理に着目しし、「BIM/CIM を維持管理に活用するためのあり方」について検討する。
小委員会	属性情報の要件記述に関する標準化検討小委員会	有賀貴志／ bSJ 技術委員会委員長	正確なデータ連携のための属性情報の要件記述に関して検討する。
	点群データ等の 3 次元情報のオープン化に関わる標準化検討小委員会	中村健二／ 大阪経済大学教授	ブロックチェーンを活用した点群データ等の原本性保証・トレーサビリティ確保に関して検討する。

4 特別委員会

4-1 検討テーマ

BIM/CIM を維持管理に活用するためのあり方検討

4-2 検討体制

委員長　　／皆川　勝（東京都市大学（名誉教授））
委員　　／木下　誠也（日本大学 危機管理学部危機管理学科）
蒔苗　耕司（宮城大学　事業構想学群価値創造デザイン学類）
今井　龍一（法政大学 デザイン工学部）
桝谷　有吾（国土交通省 大臣官房）
郭　栄珠（国土交通省 国土技術政策総合研究所）
杉浦　伸哉（一般社団法人 日本建設業連合会）
藤澤　泰雄（一般社団法人 建設コンサルタンツ協会）
間野　耕司（公益財団法人 日本測量調査技術協会）
秋山　泰久（一般社団法人 全国地質調査業協会連合会）
アドバイザー／前内　永敏（一般財団法人 日本建設情報総合センター）
大呑　智正（一般財団法人 日本建設情報総合センター）
※委員長指示により、適宜委員を追加することがある。

4-3 目的

社会基盤情報標準化委員会の特別委員会では、平成 27 年より「公共事業各段階における 3 次元データのあり方検討」を開始し、CIM の全体像とロードマップ（案）、土木分野におけるモデル詳細度標準（案）、建設生産・管理システムのあり方に関する提言などを検討・公表し BIM/CIM の推進に寄与している。その後も、継続的に検討成果のフォローアップとして BIM/CIM に係る調査・検討を続けている。これまでの BIM/CIM に係る知見を活かし、将来に向けて重要なテーマである維持管理に着目した BIM/CIM 活用の検討を行い、さらなる生産性向上への寄与を目指す。

4-4 アウトプット目標及び検討スケジュール（案）

＜アウトプット目標＞
- 維持管理段階におけるユースケース集
- 維持管理に係るBIM/CIM活用のあり方

・検討スケジュール（案）

	2023年			2024年				2025年	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
維持管理におけるBIM/CIMに関する調査・整理	■	■	■						
維持管理3次元モデルの作成方法の整理			■	■	■				
維持管理のための３次元モデル（詳細度、属性）やその他のデータのあり方の検討				■	■	■	■		
将来の維持管理に向けた検討						■	■	■	■

※ 特別委員会は、３～４か月に1回の頻度で開催予定

5 小委員会

5-1 属性情報の要件記述に関する標準化検討小委員会

（1）検討テーマ

正確なデータ連携のための属性情報の要件記述の標準化

（2）検討体制

委員長　／有賀 貴志（一般社団法人 buildingSMART Japan）
委員　／足達 嘉信（一般社団法人 buildingSMART Japan）
飯島 勇　（福井コンピュータアーキテクト株式会社）
飯田 貴　（グラフィソフトジャパン株式会社）
郭 栄珠　（国土交通省 国土技術政策総合研究所）
小島 尚　（清水建設株式会社）
黄 再弘　（株式会社大林組）
福地 良彦（オートデスク株式会社）
藤田 玲　（株式会社建設技術研究所）
武藤 正樹　（国立研究開発法人建築研究所）
安井 謙介　（株式会社 日建設計）
四月朔日 勉　（川田テクノシステム株式会社）
アドバイザー／廣松 新　（一般財団法人日本建設情報総合センター）
事務局　／中島 有理　（一般社団法人 buildingSMART Japan）

（3）目的

令和 5 年度の BIM/CIM 原則適用を受け、設計・施工・維持管理の様々な場面で 3 次元モデルをベースとする情報の活用が期待されている。3 次元モデルは形状情報と属性情報が一体であることにその価値があり、設計・施工・維持管理の各段階での活用はもとより、国土交通データプラットフォームやプラトーによる土木・建築の分野を超えた情報共有により、脱炭素・災害対応等の検討で活用が可能になる。そのために、3 次元モデルがもつ形状情報や属性情報は、活用場面に応じた情報要件に適合した種類・量で構成されていること、かつ正確であることが要求される。

3 次元モデルの作成・照査等には相当の時間を要し、特に属性情報の照査は主に目視のため、増大する作業量への対応が課題である。この課題に対して、buildingSMART International は、情報要件に対して 3 次元モデルの適合を照査する仕様である Information Delivery Specification（IDS）を 2021 年に開発した。ACCA 社はいち早く照査ツールを無償公開し、米国等でこのツールを利用した IDS の実務適用の検討が進められている。IDS による作業は、発注者が情報要件を定義したファイルを受注者に提供し、受注者は照査ツールを用いて 3 次元モデルの情報要件への適合を照査する。属性情報の情報要件は、現在、土木・建築のそれぞれで検討しているが、後々の情報共有を前提とした情報要件の明確な記述、適正な照査手法の確立ならびに社会実装の環境整備は、今後予想される情報の急増前に行う必要がある。しかし、

現状の IDS の運用は、IFC に関する知識も必要であり、だれもが簡単に扱えるまでには至っていない。

そこで、本小委員会は、建築・土木の実務者ならびにソフトウェア開発者の共同で、IFC の知識がなくても我が国の建築・土木分野の情報要件に基づく IDS の運用のための、属性情報の要件記述標準の作成、および迅速な社会実装の環境整備を目指す。

（4）達成目標

- 属性情報要件記述標準の作成
- IDS ファイルおよび IFC ファイルのサンプル作成

なお、1 年目と 2 年目それぞれの達成目標は以下のとおり。

- 1 年目：属性要件、情報交換および関連仕様に関する調査と整理
- 2 年目：属性情報要件記述に関する標準の作成と検証

（5）活動計画

1）活動内容（1 年目実績）

・ISO19650 に基づく情報要件、情報交換に関する検討

・IFC、MVD、IDS等の仕様の検討

2）活動内容（2 年目）

・属性情報要件記述標準の作成

・サンプルファイルの作成と属性情報要件記述標準の検証

・報告書作成

（6）活動スケジュール

	20**						20**												20**					
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
ISO19650 に基づく情報要件、情報交換に関する検討		■	■	■	■	■																		
IFC、MVD、IDS 等の仕様の検討							■	■	■	■	■	■												
属性情報要件記述標準の作成													■	■	■	■	■	■						
サンプルファイルの作成と属性情報要件記述標準の検証																■	■	■	■	■	■			
報告書作成																			■	■	■	■	■	■
小委員会開催予定			①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨		⑩		⑪	
本委員会への報告						■						■						■						■
事務局会議					□						□						□						□	

5-2 点群データ等の 3 次元情報のオープン化に関わる標準化検討小委員会

（1）検討テーマ

ブロックチェーンを活用した点群データ等の原本性保証・トレーサビリティ確保に関わる標準化検討

（2）検討体制

委員長　／中村　健二　（大阪経済大学）
委員　　／小林　亘　　（東京電機大学）
谷口　寿俊　（九州大学）
姜　　文渊　（大阪産業大学）
寺口　敏生　（流通科学大学）
小林　孝史　（関西大学）
山本　雄平　（関西大学）
塚田　義典　（摂南大学）
梅原　喜政　（摂南大学）
中原　匡哉　（大阪電気通信大学）
小島　脩平　（国土交通省　国土地理院）
増田　慎一郎（静岡県）
南　　幸弘　（アジア航測）
神田　広信　（応用地質）
宇野　昌利　（清水建設）
山下　淳子　（ダイナミックマッププラットフォーム）

本間　伸哉　（長大）
平野　順俊　（日本インシーク）
吉岡　正泰　（パシフィックコンサルタンツ）
アドバイザー／田中　成典　（関西大学）
今井　龍一　（法政大学）
有村　真二　（一般財団法人日本建設情報総合センター）

(3) 目的

近年，3 次元情報に関わるニーズの多様化に伴い，点群データの計測・蓄積・活用が加速度的に進行している．この動向は社会の潮流にもなっており，東京都が手掛ける「東京都デジタルツイン実現プロジェクト 3D アーカイビングイベント」や，アナザーブレイン社主催の「みんキャプ」など，市民参加型の点群データ計測・蓄積イベントも多く開催されている．こうした活動を通じて，点群データの蓄積やオープンデータ化が進む一方で，点群データの品質は，玉石混交の状況になりつつある．

本小委員会は，こうした背景の中で，点群データの品質を担保するための仕組みの構築および標準化を目指す．点群データの品質に関わる課題は次の通りである．

課題１：公開された点群データをダウンロードした第三者を経由して流通した場合に，その点群データの詳細を把握する方法がない
課題２：点群データの属性情報（計測機器，計測条件，計測者情報，調整計算の有無など）を公開された点群データに基づき把握する仕組みがない
課題３：点群データから生成された 2 次製品（BIM／CIM などの 3 次元モデル，地図，図面等）の原本となる点群データのトレーサビリティが確保できない
課題４：3 次元情報管理を主目的としたプラットフォームが多く存在し，任意地点における点群データの有無を即座に把握できない

そこで，本小委員会では，これら 4 つの課題に対応するために，ブロックチェーンの分散型台帳管理を活用して，セキュアに点群データの原本性およびトレーサビリティを確保するための仕組みと，トレーサビリティ確保に必要な点群データへの属性付与に関わる仕様を検討する．

(4) 達成目標

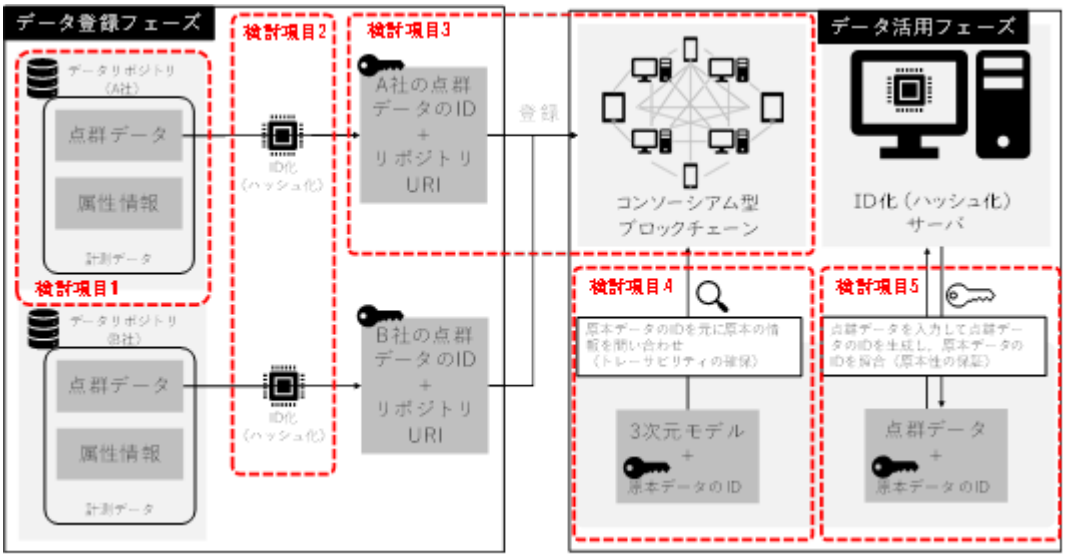
1 年目と 2 年目それぞれの達成目標は以下のとおり。

- 1 年目：3 次元データの原本性保証・トレーサビリティ確保に関する要領（案）の策定
- 2 年目：
  - ・3 次元データの原本性保証・トレーサビリティ確保に関する要領（案）の改定
  - ・3 次元データの原本性保証・トレーサビリティ確保の運用ガイドライン（案）の策定

(5) 活動計画

1) 活動内容

本小委員会で取り組む内容の全体像と検討項目を図 1 に示す．データ登録フェーズでは，各社（各ユーザ）が保有している点群データ等の 3 次元情報からトレーサビリティ確保および原本性を保証するための ID を発生させ，ブロックチェーンに登録する．データ活用フェーズでは，2 次製品や点群データとともに ID を普及させることで，原本性やトレーサビリティを確保する．



2) 活動内容（1 年目）

- 検討項目 1 ：点群データ等および属性情報として保持する項目の定義
  1. 分析対象となるデータプラットフォームを選定
  2. 各種データプラットフォームに公開されているデータを整理
  3. 公開されているデータを「空間を表現する 3 次元データ」，「3 次元データのメタデータ」と「3 次元データに関連付ける属性情報」とに分類
- 検討項目 2 ：点群データ等をハッシュ化してIDを生成するアルゴリズムの決定
  1. 「空間を表現する 3 次元データ」を共通管理可能な空間 ID とマッピング
  2. 共通管理可能な空間 ID を考慮したハッシュ化の手続きを定義
  3. 空間 ID 単位でのスケーラビリティを保持した原本性保証の仕組みを提示
- 検討項目 3 ：コンソーシアム型ブロックチェーンに保持する情報の定義
  1. 「3 次元データのメタデータ」を分析し，3 次元データへのアクセス情報と，3 次元データの取捨選択時に必要となるデータ（インデックス情報）を抽出
  2. 共通管理可能な空間 ID を考慮したハッシュ化の手続きを定義
  3. 空間 ID 単位でのスケーラビリティを保持した原本性保証の仕組みを提示

3）活動内容（2 年目）

・ 検討項目４：2次製品にIDを付与する仕様とトレーサビリティ確保の手法の決定

1. 本委員会にて検討対象とする 2 次製品と 2 次製品のデータフォーマットを調査

2. 2 次製品のデータに対して当該製品の構築に用いた原本となるデータの ID を関連付ける方法を定義（バイナリデータへの書き込み，同一ファイル名にて ID ファイルを保持，タグデータのその他領域への書き込み等）

3. ID に基づくトレーサビリティ確保に関わる手続きを規定

・ 検討項目５：点群データにIDを付与する仕様と原本性保証の手法の決定

1. 本委員会にて検討対象とする 3 次元データと 3 次元データのデータフォーマットを調査

2. 3 次元データの ID を関連付ける方法を定義（バイナリデータへの書き込み，同一ファイル名にて ID ファイルを保持，タグデータのその他領域への書き込み等）

3. ID に基づく原本性保証に関わる手続きを規定

（6）スケジュール

	2023						2024												2025					
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
データリポジトリ内に保存する項目の討議と仕様案の検討																								
点群データ等の原本性を確保するためのID化（ハッシュ化）の方策案の検討																								
ブロックチェーン環境の調査と小委員会にて活用する環境を選定																								
点群データ等の原本性を確保するためのID化（ハッシュ化）およびブロックチェーン管理に関わる仕様を策定																								
ブロックチェーン環境にて点群データ等のIDを管理する仕組みを検討し，その内容を考慮したガイドラインを策定																								
ブロックチェーンを活用した点群データ等の原本性保証・トレーサビリティ確保に関わる指針を策定																								
小委員会開催予定		◆				◆			◆			◆			◆			◆			◆			◆
仕様検討 WG 開催予定			●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●	
本委員会への報告						■												■						■

参考　これまでの標準化委員会の活動経緯

2000 年に策定した「建設情報に係る標準化ビジョン」において、次の 2 つの目標を達成することが建設関連産業全体の活性化に貢献するとしています。

> **建設情報に係る標準化ビジョン**
>
> 建設に関する情報を最も効率よく活用するために、広く関係者を結集し建設情報に係る標準化を強力に推進することによって、21 世紀初頭に建設分野において、
>
> ①　**円滑な電子データ流通基盤の構築**
>
> ②　**統合的な電子データ利用環境の創出**
>
> を実現し、もって建設分野全体の生産性向上を図る。

これまでの委員会の活動計画として、3 ヵ年毎に、第一次計画（2001～2003 年度）、第二次計画（2004～2006 年度）、第三次計画（2007～2009 年）を策定してきました。2010 年には、委員会名称を旧建設情報標準化委員会から社会基盤情報標準化委員会に改め、社会基盤情報標準化推進計画（2010～2012 年）を策定しました。検討テーマは、電子納品に係る成果品の利活用や CAD データ交換、位置情報、コード化など、国交省における CALS に対する方策に沿った個別の標準化課題について、活動が行われました。

また、2013 年度からは、ICT の先端技術を取り入れた新たな社会情勢への機動的な対応ができるよう小委員会テーマの公募を実施するとともに、長期の推進計画から単年度を基本とした標準化実施計画を策定し、活動を進めることとしました。さらに、2014 年度 からは、標準化委員会自身の検討の場として特別委員会を設置し、標準化に関連する重要な課題を対象に検討を行っています。

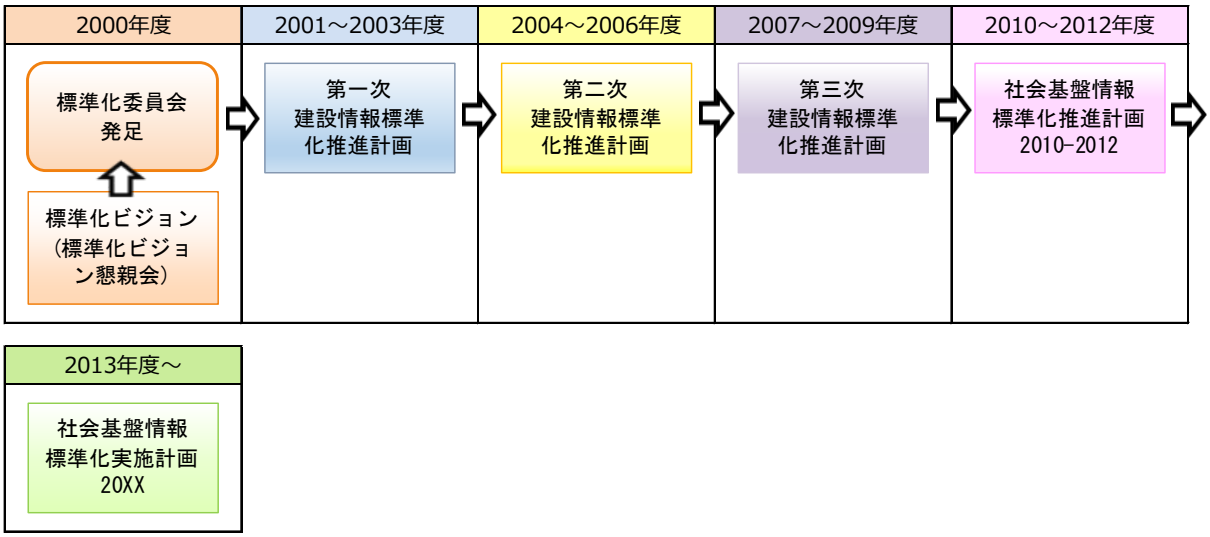


図 2　標準化委員会の活動経緯

表 3　これまでの標準化委員会の活動経緯の概要

第一次 建設情報標準化 推進計画	
活動期間	2001 年 7 月～2004 年 6 月
実施方針	・位置情報をキーとした建設情報をファイル単位で検索可能とするための標準整備 ・2 次元 CAD データ、電子地図の CAD への取り込み等を可能とするための標準整備
小委員会体制	①成果品電子化検討小委員会 ②電子地図／建設情報連携小委員会 ③CAD データ交換標準小委員会 ④コード小委員会
検討成果	建設事業における成果品を規定する電子納品要領・基準類や、CAD データの交換標準フォーマット(SXF)などの検討・作成を支援
第二次 建設情報標準化 推進計画	
活動期間	2004 年 7 月～2007 年 6 月
実施方針	・事業フェーズや事業分野を越えて情報を活用していくための標準整備 ・オブジェクトレベルでのデータ交換を実現するための基盤整備
小委員会体制	①電子成果高度利用検討小委員会 ②電子地図／建設情報連携小委員会 ③CAD データ交換標準小委員会 ④コード／分類体系検討小委員会
検討成果	各種電子納品要領における改訂の検討、電子データの有効利用の方策及び情報共有のあるべき姿の検討、標準インタフェース仕様及び地名辞書の整備・運用ルールの検討、拡張 DM から SXF への変換仕様及び CAD と GIS 間のデータ連携の考え方の手引きの作成、SXF Ver3.0 の仕様等の改訂、属性セットガイドラインの作成、JCCS Ver2.0 の策定、発注機関コードの作成、オブジェクトデータ交換の検討課題の整理
第三次 建設情報標準化 推進計画	
活動期間	2007 年 7 月～2010 年 6 月
実施方針	・ライフサイクルの各段階や事業分野、組織間を連携して、情報共有していくための標準整備 ・意味内容まで踏み込んだデータ交換を実現するための基盤整備
小委員会体制	①電子成果高度利用小委員会 ②図面／モデル情報交換小委員会 ③情報連携基盤小委員会
検討成果	電子納品要領における改訂の検討、道路横断形状データ交換標準（素案）、SXF 表示機能及び確認機能要件書(案)、「建設分野における XML 記述仕様の考え方（案）」の作成、レジストリの機能・コンテンツ検討及び JACIC/LCDM レジストリへの反映、「図面位置確認システム」のプロトタイプの構築、電子納品データの通行性検証
社会基盤情報標準化推進計画 2010-2012	
活動期間	2010 年 7 月～2013 年 6 月
実施方針	・利活用の方法を考慮した柔軟な標準仕様の提案 ・事業に派生して発生する蓄積情報（ノウハウ、点検履歴など）の活用方法の検討 ・アプリケーションへの依存が小さい交換標準の整備 ・分散管理されたデータの多様な検索・入手・活用方法の検討
小委員会体制	①電子成果利活用小委員会 ②CAD／データ連携小委員会

検討成果	・SXF 共通ライブラリ Ver.3.20 の配布 ・数値地形図データ－SXF 作成仕様（案）／2011 年 12 月 ・SXF データ作成要領／2012 年 6 月 ・電子納品のモデル案と考え方／2013 年 8 月 ・CAD データ利活用ガイドブック／2013 年 8 月 ・XML 記述に関するチェックリスト／2013 年 8 月
社会基盤情報標準化実施計画 2013	
活動期間	2013 年 6 月～2014 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める。
小委員会体制	①ボーリング柱状図標準化小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ②CIM における情報共有技術と標準検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ③電子納品流通環境整備小委員会【1 箇年計画】 ④地形を対象とした 3 次元製図基準検討小委員会【1 箇年計画】 ⑤社会資本維持管理の電子化小委員会【2 箇年計画の 1 年目】
検討成果	＜電子納品流通環境整備小委員会＞ ・クラウドプラットフォームの利用などによる、安価でサステナブルな電子納品データ流通の運用モデル仮説の具体化について実証研究を実施 ・電子納品データを想定したビジネス利用や行政の業務効率化について各委員の意見交換や提案に基づき議論を実施 ＜地形を対象とした 3 次元製図基準検討小委員会＞ ・3 次元地形データに係わる既存資料、ニーズと利用場面の整理 ・地形を対象とした 3 次元製図の定義 ・地形を対象とした 3 次元製図基準の構成項目（目次案） ・地形を対象とした 3 次元製図基準を策定するための検討項目
社会基盤情報標準化実施計画 2014	
活動期間	2014 年 6 月～2015 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める
小委員会体制	①ボーリング柱状図標準化小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ②CIM における情報共有技術と標準検討小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ③社会資本維持管理の電子化小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ④社会基盤 COBie 検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ⑤地形を対象とした 3 次元製図基準検討小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ⑥サステナブル電子納品検討小委員会【2 箇年計画の 2 年目】
検討成果	＜ボーリング柱状図標準化小委員会＞

	・「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説原案」を作成 ・「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)原案」の英訳版を作成 ※ 本小委員会の検討成果は、全国的な普及展開の可能性が期待され標準としての活用が期待できるため、社会基盤情報標準化委員会として推奨することとした。 ＜CIM における情報共有技術と標準検討小委員会＞ ・国内の道路プロジェクトのユースケースを作成 ・国内の道路プロジェクトの IDM を作成 ・道路設計概念モデル（α版）を作成 ＜社会資本維持管理の電子化小委員会＞ ・具体的な地方自治体の道路アセットマネジメントシステムの電子データベースの必要性を整理 ・電子納品、定期点検、維持修繕などの電子情報の体系化のあり方について検討 ＜地形を対象とした 3 次元製図基準検討小委員会＞ ・３次元地形描画ガイドラインの目次（案）および草案を作成 ・３次元地形描画ガイドラインにもとづき CAD ソフトによって作成した地形の検証 ＜サステナブル電子納品検討小委員会＞ ・具体的な地方自治体を対象に電子納品成果を用いてクラウドプラットフォームを通した公開情報の流通を試行 ・電子納品成果の流通に向けたガイドラインの素案づくりを行い、その汎用性・有効性について自治体を対象としたアンケート等から確認作業の実施
社会基盤情報標準化実施計画 2015	
活動期間	2015 年 6 月～2016 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める。
小委員会体制	①社会基盤 COBie 検討小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ②道路設計モデルの実務適用検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ③橋梁モデル IFC-Bridge 検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ④地質地盤情報電子データ標準化小委員会【2 箇年計画の 1 年目】
検討成果	＜社会基盤 COBie 検討小委員会＞ ・特定の土木構造物（トンネル）における COBie 案の作成、適用検証 ・COBie の概要周知
社会基盤情報標準化実施計画 2016	
活動期間	2016 年 7 月～2017 年 6 月

実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める
小委員会体制	①道路設計モデルの実務適用検討小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ②橋梁モデル IFC-Bridge 検討小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ③地質地盤情報電子データ標準化小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ④CIM3D 部品に関する標準化検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】
検討成果	＜道路設計モデルの実務適用検討小委員会＞ ・国内の道路工事における設計データへの IFC-Road の適用 ＜橋梁モデル IFC-Bridge 検討小委員会＞ ・IFC-Bridge のデータ構造の整理 ・Visualization への適用 ・数量伝達への適用 ・IFC-Bridge の用語分析 ＜地質地盤情報電子データ標準化小委員会＞ ・地質・土質調査成果電子納品要領（改定原案） ・物理探査電子納品要領（原案） ＜特別委員会＞ ・CIM の全体像とロードマップ（案） ・プロセス全体で CIM モデルを情報共有するためのあり方（案） ・土木分野におけるモデル詳細度標準（案）
社会基盤情報標準化実施計画 2017	
活動期間	2017 年 7 月～2018 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める
小委員会体制	①CIM3D 部品に関する標準化検討小委員会【2 箇年計画の 2 年目】 ②地盤データ品質標準化小委員会【1 年目】 ③道路分野における点群データの属性管理仕様の検討小委員会【1 年目】
検討成果	＜CIM3D 部品に関する標準化検討小委員会＞ ・BIM/CIM ３D 部品標準ガイドライン（Ver1.0） ＜道路分野における点群データの属性管理仕様の検討小委員会＞ ・点群データの属性管理仕様【道路編】（素案）－第 0.5 版－

	＜特別委員会＞ ・土木分野におけるモデル詳細度標準（案）【改訂版】 ・直近の 3 ヵ年で活動が終了した小委員会の動向の整理 ・クラウド環境および建設生産プロセスのあり方についてユースケースの整理 ・建設生産プロセスのカイゼンに資する技術の整理
社会基盤情報標準化実施計画 2018	
活動期間	2018 年 7 月～2019 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める
小委員会体制	①地盤データ品質標準化小委員会【2 年目】 ②シールドトンネルデータ連携標準化検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】
検討成果	＜地盤データ品質標準化小委員会＞ ・報告書「三次元地質・地盤モデルの利活用と不確実性の評価・明示」 ＜特別委員会＞ ・建設生産・管理システムのあり方に関する提言 ～「新現場力」による創造的な現場環境の創出～
社会基盤情報標準化実施計画 2019	
活動期間	2019 年 7 月～2020 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める。
小委員会体制	①シールドトンネルデータ連携標準化検討小委員会【2 年目】 ②スマートインフラセンサのコード・データベース標準化検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ③インフラアセット情報連携標準化検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ④河川 CIM 標準化検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ⑤橋梁パラメトリックモデル標準化検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】
検討成果	＜シールドトンネルデータ連携標準化検討小委員会＞ ・シールドトンネルの BIM/CIM モデルの作成手法の開発
社会基盤情報標準化実施計画 2020	
活動期間	2020 年 7 月～2021 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う

	・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める
小委員会体制	①スマートインフラセンサのコード・データベース標準化検討小委員会【2 年目】 ②インフラアセット情報連携標準化検討小委員会【2 年目】 ③河川 CIM 標準化検討小委員会【2 年目】 ④橋梁パラメトリックモデル標準化検討小委員会【2 年目】
検討成果	＜スマートインフラセンサのコード・データベース標準化検討小委員会＞ ・センサコードの標準化案（SIS 製品コード/SIS 設置コード） ・センサポータル･実装レベルのインフラ維持管理データベース標準化案 ・センサコード（ID）発行管理運営体制案 ＜インフラアセット情報連携標準化検討小委員会＞ ・橋梁における情報連携・流通ガイドライン（案） ＜河川 CIM 標準化検討小委員会＞ ・3 次元設計を中心とした河川 CIM の標準化に向けた考え方の提案 ＜橋梁パラメトリックモデル標準化検討小委員会＞ ・パラメトリックモデリングによる橋梁の 3 次元モデル作成指針（案） ＜特別委員会＞ ・ＩＣＴを活用した画像・映像情報の利活用のあり方に関する提言 ～中間とりまとめ～
社会基盤情報標準化実施計画 2021	
活動期間	2021 年 7 月～2022 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める
小委員会体制	①スマートインフラセンサモニタリングデータにおけるメタデータ標準化検討小委員会【2 箇年計画の 1 年目】 ②BIM/CIM における情報エコシステム小委員会【2 箇年計画の 1 年目】
検討成果	＜特別委員会＞ ・ICT を活用した画像・映像情報の利活用のあり方に関する提言
社会基盤情報標準化実施計画 2022	
活動期間	2022 年 7 月～2023 年 6 月
実施方針	・委員会発足の目的である「建設情報に係る標準化ビジョン」（＝「①円滑な電子データ流通基盤の構築、②統合的な電子データ利用環境の創出」）に従った検討テーマを公募により募る ・公募だけではカバーしきれない標準化に関連する重要な課題については、標準化委員会が主体となって設置する特別委員会において検討を行う ・広範囲なテーマに機動的に対応した検討を行えるよう、長期の推進計画とせず、単年度を基本として計画を定める

小委員会体制	①スマートインフラセンサモニタリングデータにおけるメタデータ標準化検討小委員会【2 年目】 ②BIM/CIM における情報エコシステム小委員会【2 年目】
検討成果	＜スマートインフラセンサモニタリングデータにおけるメタデータ標準化検討小委員会＞ ・モニタリングデータのメタデータ標準仕様案 ・モニタリングデータベースの仕様案 ＜BIM/CIM における情報エコシステム小委員会＞ ・ISO19650 の日本版附属書（National Annex）作成支援の為のガイド（案）